令和七年度学力検査問題

国　語　①（人文学部）前期日程

（問題紙　一～二十二ページ　別紙解答用紙枚数　一枚）

解答時間　一二〇分

注　意　事　項

一、試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。

二、本冊子のページ数は右に示したとおりである。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所などがある場合は申し出ること。

三、解答はすべて**別紙解答用紙のそれぞれの解答欄**に記入すること。

四、解答用紙の指定された欄（**二箇所**）に、忘れずに本学の**受験番号**を記入すること。

五、試験場内で配付された問題冊子は試験終了後持ち帰ること。

一

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。（＊は本文の後に注があることを示す。）

著作権の関係上公表しない

著作権の関係上公表しない

著作権の関係上公表しない

著作権の関係上公表しない

著作権の関係上公表しない

（松井哲也「ＡＩの手を掴（つか）むくらいなら溺れて死ぬ」より。出題に際し原文を一部改めた。）

〔注〕＊ボトルネック＝ここでは、事を遂行する際に障害となる箇所の意味。
＊シンギュラリティ＝人類の知能をＡＩが超える転換点。またはそれがもたらす世界の変化のこと。
＊インタラクション＝相互のやり取り。
＊インタフェースデザイン＝人と機械の「接面」のデザイン。機器の使いやすさを向上させる用語・色彩・形状・反応など様々な要素の総合デザイン。

問一 傍線部①「第二次ＡＩブームの主役であったエキスパートシステム」と傍線部②「第三次ＡＩブームの主役であるディープラーニングの基本となる機械学習」について、両者の特徴と問題点をそれぞれ簡潔に各五〇字以内で説明せよ。

問二 傍線部③に「官僚組織によって行われる意思決定が〈私〉の人生に影響を及ぼすことと、人工知能というブラックボックスの意思決定が〈私〉の人生に影響を及ぼすこととの間には、どのような差異があるだろうか」とあるが、ここでの「差異」の内容を七〇字以内で説明せよ。

問三　傍線部④「落とし穴」について、本文で提示されている「ＡＩに仕事を奪われる」言説の場合は次のように説明できる。説明文の［Ｘ］～［Ｚ］にそれぞれ当てはまる最も適当な語句を、説明文の後に示す選択肢の中から選んで、記号で答えよ。

「ＡＩに仕事を奪われる」言説の場合は、ＡＩを我々の社会という系の内側にある静的なものとみなしてしまう［Ｘ］によるもので、実際、ＡＩは社会における仕事という［Ｙ］自体を変える可能性のある［Ｚ］である。

ア　異類　　イ　概念　　ウ　具象　　エ　個性
オ　錯覚　　カ　同類　　キ　比較　　ク　真ん中

問四　［ａ］～［ｄ］のカタカナを漢字に改めよ。

二

次の文章は、平野啓一郎『空白を満たしなさい』という小説の一部である。この文章を読んで後の設問に答えよ。

著作権の関係上公表しない

著作権の関係上公表しない

著作権の関係上公表しない

著作権の関係上公表しない

著作権の関係上公表しない

（平野啓一郎『空白を満たしなさい』より）

問一　傍線部a「月並み」、傍線部b「怪訝に感じて」、傍線部c「釈然としない」について、本文中における意味として最も適切なものをア～エから一つ選び、記号で答えよ。

a「月並み」
ア　ためらわれること
イ　ありきたりなこと
ウ　ばかばかしいこと
エ　あいまいなこと

b「怪訝に感じて」
ア　恐ろしく感じて
イ　大げさに感じて
ウ　困難に感じて
エ　不思議に感じて

c「釈然としない」
ア　拒否できない
イ　言い訳できない
ウ　納得できない
エ　宣言できない

問二　傍線部①に「自分を隅々まで掌握して、或る人格を拵えたりするなんてこと」とあるが、これと反対の状態にある「自分」を、池端はどのように表現しているか。本文中から八字で抜き出して答えよ。

問三　傍線部②「徹生の頬にはふっと笑みが籠もった」について、このとき徹生の心の内側で何が起こっていたのか、六〇字以内で説明せよ。

問四　本文中の四か所に二重傍線部「本当の自分」がある。「本当の自分」に対する徹生と池端の認識の違いを説明した次の文の空欄〈　X　〉〈　Y　〉に当てはまる語句を、〈　X　〉は六字、〈　Y　〉は七字で、それぞれ本文中から抜き出して答えよ。

徹生は「本当の自分」を〈　X　〉のようなものと考えているのに対し、池端はつきあう相手が変わるごとに〈　Y　〉が変わるようなものだと考えている。

問五　傍線部③に「誰かと一緒にいた時の分人の余韻、人格の名残のようなものです」とあるが、それはどういうことか、五〇字以内で説明せよ。

三　次の文章【A】は、鎌倉時代の公卿・歌人の飛鳥井雅有による『春の深山路』の一節で、都から鎌倉へと向かう旅路の記録である。文章【B】は、『伊勢物語』の一節である。文章【A】と【B】を読んで、後の設問に答えよ。（＊は本文の後に注があることを示す。）

文章【A】

著作権の関係上公表しない

（『春の深山路』より）

文章【B】

著作権の関係上公表しない

著作権の関係上公表しない

（『伊勢物語』第九段より）

〔注〕＊鳴海潟＝歌枕の一つ。現在の愛知県名古屋市緑区鳴海町。当時は海岸線が現在よりも深く入り込んでいた。
＊安嘉門院右衛門佐＝鎌倉時代の女性歌人。出家後は阿仏尼と呼ばれた。
＊二村山＝歌枕の一つ。現在の愛知県豊明市にある山。
＊八橋＝歌枕の一つ。現在の愛知県知立市八橋町。
＊能因法師＝平安時代の僧侶・歌人。東国・陸奥を旅したことで知られる。
＊谷の橋＝鎌倉では「谷」を「やつ」と呼ぶことがあることから、この説が生まれたと考えられる。

問一 傍線部①「葉末ばかりぞ残るらむかし」、傍線部②「見まほしけれど」を、それぞれ現代語訳せよ。

問二 空欄 X に入る最も適当な助動詞を次の選択肢から選んで、適切な活用形にして答えよ。

けむ　ごとし　しむ　たし　べし　まし

問三　『伊勢物語』と同じく「歌物語」とされる作品を次の選択肢の中から二つ選んで、記号で答えよ。

ア　落窪物語　　イ　宇津保物語　　ウ　源氏物語　　エ　竹取物語

オ　平家物語　　カ　平中物語　　キ　大和物語　　ク　夜の寝覚

問四　文章【A】の和歌「鳴海潟思はぬ方に引く波のはやく都にいかで帰らむ」を、「はやく」が掛詞であることに留意して、現代語訳せよ。

問五　波線部「何をか句の頭に置きて、歌も詠むべき」について、なぜそう思ったのか、文章【B】を踏まえて、具体的に説明せよ。

四 次の文章を読んで、後の設問に答えよ。（＊は本文の後に注があることを示す。また、設問の都合で、振り仮名や送り仮名を省いた箇所がある。）

著作権の関係上公表しない

（伊藤仁斎『仁斎日札』より）

〔注〕
＊貪恋＝執着する。
＊修為＝修養。
＊生民＝人類。または人類の発祥。
＊務為＝つとめ励む。
＊花謝＝花が散る。
＊冷看＝冷静に眺める。

問一　傍線部①～④の訓読みを答えよ。送り仮名があれば、それも含めること（現代仮名遣いで構わない）。

①「大凡」
②「幾許」
③「従」
④「然」

問二　傍線部（ア）「不可作無益之事、以求後世之名」を現代語訳せよ。

問三　傍線部（イ）に「悟得此意、亦勿為幻解」とあるが、「此意」の意味を明らかにしつつ、本文の内容に即してその理由を説明せよ。